

過疎地域における孤独死を防ぐために 私達に何ができるだろう

山形県立寒河江高等学校

1.探究の動機

高齢化の問題の1つである孤独死を少しでも減らしたいと考えたこと。

2.仮説

広い年代の人が集まって情報交換できる場があれば防ぎやすくなる。

3.調査方法

自治体へのインタビュー、インターネット

4.調査結果1

そもそも孤独死とは ...

周辺の人との関係を断っていた人の死亡が、一定時間が経過した後
に判明すること。家族への**精神的負担**や**遺体処理の大変さ**が**問題視**されている。



結果2

過疎地域の孤独死は意外にも多くない

地方特有の**近所付き合い**、**多世代同居**により防がれることが多い。また、各地方に配属される**民生委員**の方々も重要な役割を果たしている。

孤独死の判明

- ・ライフラインの使用履歴
- ・郵便受けにある郵便物の量



現在の孤独死対策

新聞配達や宅配、見守りサービスなどを行う**民間企業の社会貢献活動**。

現在、**人間関係は薄れてきている**。

孤独死が深刻化すれば新たな対策が必要になる。

完璧な孤独死対策は存在しない

突発的な命に関わる病気（心臓発作など）がある限りは孤独死を**完全には防げない**。成果が得られそうな政策を実施しても、**費用対効果の問題**があり、続けるのは難しい。

結果3

西川町の孤独死対策に繋がる政策

西川町では全世帯にタブレットを配布している。これが孤独死対策に繋がると考えた。

現在のタブレットの役割

ホームページを閲覧できたり、町からのお知らせ、防災情報、バスの時間を確認できたりという役割があり、情報の流れは一方通行となっている。

5.まとめ・考察

・過疎地域における孤独死を防ぐためには **地域住民同士の結びつき**が重要になる。また、**民生委員**の存在もとても大きなものである。

・過疎地域における若者の孤独死に関しては、学校があり、通ってなくても一人暮らしはかなり少ないため、**ほぼ無い**と考えられる。

・表より、男性と女性の孤独死は男性の方がかなり多いことから**男女で周りの人との関係の持ち方に違いがある**と考えられる。

・西川町の孤独死対策への提案
タブレットに**通報機能**を付け、近所の人
が心配なときに役場の人に確認してもらおう。



私達にできること

・近隣の人と**挨拶**

孤独死の早期発見の鍵は**コミュニティ作り**と**情報交換**。その第一歩が挨拶となる。

・**地域のイベント**に参加する

子ども会などのご近所同士の関わりが多いイベントに参加することで情報交換ができる。

・異変を感じたら相談

孤独死が起きていると郵便物が溜まっていたりする。異変を感じたら家の人に話してみよう。

孤独死の現状

	20~29	30~39	40~49	50~59	小計	60~69	70~79	80~	合計
男性	243	377	562	985	2,167	1,706	1,158	491	5,522
割合	4.40%	6.80%	10.20%	17.80%	39.20%	30.90%	21.00%	8.90%	100%
女性	88	99	126	167	480	221	245	161	1,107
割合	7.90%	8.90%	11.40%	15.10%	43.30%	20.00%	22.10%	14.50%	100%
合計	5.00%	7.20%	10.40%	17.40%	40.00%	29.10%	21.20%	9.70%	100%